

# 新課程における カリキュラム編成の考え方

## — 2013年度の全面実施に向けて —

2012年度の数学・理科先行実施、13年度の全面実施を前に、  
各校で新課程に対応するカリキュラム編成の検討が進められている。

生徒の進路希望状況や学校を取り巻く環境によって、カリキュラム編成の考え方はどう異なるのか。  
その課題と編成の方針、手順などを、秋田県立秋田北高校と神奈川県立住吉高校に聞いた。

### 秋田県立秋田北高校のカリキュラム編成

<b>現 状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 理数系科目の学力が伸び悩む</li> <li>● 国語の学力が高く、他校に比べて授業時数が多かった</li> </ul>
<b>カリキュラム編成方針</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目標を難関国公立大合格に設定</li> <li>● 理数系科目を充実させる</li> </ul>
<b>カリキュラム編成上の 特徴</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県内の進学校の現行課程カリキュラムを一覧化して、データに基づいた目標を設定</li> <li>● 理数系科目の充実に伴い、国語の単位数を標準単位にすると共に、選択科目の見直しをする</li> <li>● 他校の教務主任と連携し、課題を共有する</li> </ul>
<b>今後の課題と展望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 難関国公立大の合格実績を上げ、生徒・保護者の期待に応える</li> <li>● 理数系科目の充実を学内外にアピールし、理系志望の入学生を増やす</li> </ul>

### 神奈川県立住吉高校のカリキュラム編成

<b>現 状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学進学率の増加に対応できていない</li> <li>● 理系の生徒への負担が大きい</li> </ul>
<b>カリキュラム編成方針</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 過当たりの授業時数を増やさず、生徒の進路を実現する</li> <li>● 学校の一体感を保つために文理コース制は行わない</li> </ul>
<b>カリキュラム編成上の 特徴</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「<u>新カリキュラム編成のガイドライン</u>」を策定し、大枠と方向性を全教師で確認した上で作成</li> <li>● 2年生の選択科目を増やし、進路に応じた選択をさせる</li> </ul>
<b>今後の課題と展望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1年生からの進路意識の醸成を目指し、3年間を見通した進路指導計画を全教師で共有</li> <li>● 「総合的な学習の時間」を担う調査研究グループと進路指導を担うキャリア活動支援グループの協働体制の構築</li> </ul>

数学・理科の先行実施を次年度に控え、各校ではカリキュラム編成の検討を進めている。新課程での大学入試科目の概要が分からない状況ではあるが、多くの高校が、まず自校のS・Iを再定義し、課題を洗い出して、カリキュラム

作成に入るという過程を踏んでいるようだ。大きな課題は、理科の単位配置、選択科目の取り扱いについてである。実態を把握し、生徒の進路を実現させていくカリキュラム編成の考え方を2校の具体例から検討したい。

# 自校のS Iを固め、共通認識を持ってから作成

秋田県立秋田北高校

難関国公立大を目標に据え  
理数系科目の充実を図る

理数系科目の伸び悩みを  
打破する契機と捉える

秋田県立秋田北高校は、旧制高等女学校を前身とする進学校だ。

女子校として長い歴史を刻んできたが、2008年度に共学化して再スタートを切った。指導上の課題は、理数系科目の学力の伸び悩みにあった。そこで、数学と理科の充実を掲げる新課程を契機に、自校の課題克服を目指している。

同校は国語などの文系科目が県内でもトップクラスである。しかし、数学と理科はセンター試験で全国平均を下回ることも珍しくなく、難関国公立大合格者が伸び悩む要因の一つとなっていた。共



秋田県立秋田北高校  
佐々木英憲  
Sasaki Hidenori  
教職歴24年。同校に赴任して3年目。教務主任。

学校プロフィール◎旧制高等女学校を前身とする創立110年以上の伝統校。2008年度に共学化した。現在も生徒の8割は女子。  
形態◎全日制/普通科/共学/1学年約240人  
10年度入試の実績(現役のみ)◎国公立大には108人が合格。私立大には延べ173人が合格。

学化により男子生徒が入学することとは、全体的な学力の底上げを図れる契機になると捉え、頑張つていこうという意思を教師間で共有していた。

特に、同校が新課程でのカリキュラム編成において主軸の一つにしたのは、理数系科目の充実だ。数学と理科の単位数を増やし、多様なメニューを用意し、難

神奈川県立住吉高校

進路動向の変化を見据え  
一般受験にも対応した文理科目を配置

生徒の志望の変化に対応し  
カリキュラムを検討

神奈川県立住吉高校は、県内において学力的に中位に位置する、普通科の中堅校だ。新課程におけるカリキュラム編成時に最も意識したことは、生徒を3年間で伸ばし、かつ一般受験の増加など進路動向の変化に対応できるカリキュラムづくりであった。同校では、ここ数年で大学進学希望者が急増したため、その対応に課題を感じていた。学校の将来ビジョンの策定、及びカリキュラム編成を担う「調査研究グループ」の木下礼子先生は、次のように話す。

「1年次における大学進学希望



神奈川県立住吉高校  
木下礼子  
Kinoshita Reiko  
教職歴27年。同校に赴任して3年目。調査研究グループ。総括教諭。



神奈川県立住吉高校  
春日昭  
Kasuga Akira  
教職歴26年。同校に赴任して2年目。調査研究グループ。

学校プロフィール◎2011年度に創立32年を迎える。「国際理解教育」を特色とし、「総合的な学習の時間」で異文化体験や講演会などに取り組む。  
形態◎全日制/普通科/共学/1学年約230人  
10年度の進路実績(現浪計)◎4年制大に123人が合格。短大23人、専門学校54人、就職10人。

者は、3年前は6割強でしたが、10年度には8割を超えました。生徒が利用する入試形態も指定校推薦入試中心から一般入試の割合が増えています」

カリキュラム編成で課題となっ

\*プロフィールは取材時(2011年3月)のものです

関国公立大を目標とする生徒のニーズに応えようと考えたのである。現在、男子生徒は2割程度だが、今後、進路実績を上げていくことにより、また市内他校の学級数減が予想されることなどから、同校への志望動向にも変化が見られるのではないかと考えている。

教務主任の佐々木英憲先生は、「センター試験で理数系科目の得点が思わしくなかったために、出願時に志望校を変える生徒が毎年います。3年間の教育課程を目標に合わせて組み、きちんと学力保障をする必要性を感じていました。新課程は学校を軌道修正する大きなチャンスだと捉えています」

### 学校目標を反映した カリキュラム編成

新課程におけるカリキュラムの原案を職員会議に諮る際、佐々木先生が議論のよりどころにしたのは客観的なデータであった。県内の進学校における、現行課程の教科ごとの単位数を一覧表にして配付したのである。

「先生方との会話で『あの学校の数学の学力が高いのは○単位あるからだ』という話がよく出ます。しかし、そうした情報はイメージで語られることが多く、実際には違う場合もあります。曖昧な情報による議論の混乱を避けるためには、事実に基づいた正確な情報が必要です」（佐々木先生）

佐々木先生がまとめた一覧表によって、同校は現行課程の1年生で『国語総合』を5単位確保しており、他校に比べて多いことが明らかになった。

カリキュラム編成の過程では、客観的な情報を整理した上で、教師間で共通認識を持つために、学校目標の見直しや再確認を含めて活発な議論がなされた。「大学卒業時の就職率を考えれば、地方国公立大よりも中堅以上の首都圏私立大を目指した方が良いのではないか」という意見もあったが、生徒や保護者の志望の大半は国公立大である。「志望を実現させる学力を付けさせるのが高校の使命」と教師間で目線を合わせ、5教科7科目への対応はこれまで以上に

たのは、理数系科目の単位数増への対応だ。総単位数を増やすのか、あるいはそれ以外の道を探るか。調査研究グループの春日昭先生は次のように説明する。

「学力保障のために7時間目を設けたり、土曜に補習を行ったりして対応する学校もあると思いますが、本校の現状では授業時数を増やしても生徒の意欲はなかなか持続しません。また、学校の一体感を保ちたいという配慮から、コース制（文理選択）にはしない方針です。新課程でも、この二つは堅持したいと考えました」

### 「ガイドライン」により 全教師で基本方針を確認

各教科担当の意向を反映し、教師全員が納得できるカリキュラムを編成するのは難しい。そこで、同校はまず「新カリキュラム編成のガイドライン」を策定（図）。週当たりの授業時数は現行課程と同じ週30時間とする、コース分けは行わないなどの基本方針を学校全体で確認・共有した。

#### 図 住吉高校「新カリキュラム編成のガイドライン」

- **週当たりの時間数**
  - ・50分×6時間×5日間 週30時間（LHR1時間を含む）
- **必修科目と選択科目の置き方**
  - ・「文系コース」「理系コース」といったコース制は行わず、選択科目で対応する
  - ・1年生では、芸術以外は共通履修としたい
  - ・2、3年生の選択科目は、現状の見直しを含め検討する
- **「総合的な学習の時間」の扱い**
  - ・3年間で3単位としたい
  - ・各学年とも、毎週の時間割に組み込む
  - ・1、2年生の継続履修の考え方も含め検討する

\*学校資料を基に編集部で作成

理系の生徒への対応としては、共通履修をある程度減らし、理科の基礎科目は1年生で2科目、2年生で1科目を置き、2年生では更に理科の選択科目を置く予定だ。選択の自由度は必ずしも高くなく、「古典または数学B」というように、選択科目によって生徒の進路実現につながるような形にしている。

「コースに分属することで、生徒の意識に壁を作りたくありませんでした。多様な進路を保障しつ

力を入れるべきとの結論を得た。学校目標を実現するため、まずは国語を標準並の単位数とした。強みである国語の単位数減に対して懸念の声も上がったが、国語の教師が授業を効果的に進めることで、今の学力を担保できるという結論に達した。

「更に、1年生で全員履修、2、3年生では選択履修としていた『芸術』と『家庭』は、『総合的な学習の時間』や課題研究の中で、その学習を深めることにより、情操教育に資することが出来ると考えました。情操教育は一人ひとりが心豊かな人生を送る上で大変重要であるという認識を持ちつつも、一方で生徒の進路志望を出来るだけ達成させてやりたいという強い気持ちがあり、この時間も主として理数系教科・科目に充てることにしたのです」(佐々木先生)

### 他校の教務主任と連携し 課題やノウハウを共有

もう一つ、カリキュラム編成を行う上で大きな力になったのは、

他校との連携だった。県内6校の教務主任が自校のカリキュラムの原案を持ち寄って、共通の課題やカリキュラム編成上の工夫について語り合う場を設けたのである。

「6校の中で、本校が最初にカリキュラムの原案を作り提示しました。他校の先生からは、『もっと学校目標に基づいたカリキュラムにすべきではないか』『理数系科目を重視したカリキュラムになっていない』など、率直な意見をいただきました。そうした議論を通して、他の先生方も自校のカリキュラムのイメージを固めていかれたのではないのでしょうか」(佐々木先生)

現在、6校共に12・13年度のカリキュラムの具体案が完成し、実施に向けた準備をしているところだという。

今後、同校では、新課程において理数系科目を充実させたことを学内外に広くアピールしていく予定だという。高校入試の段階から理系を志望する生徒を集めることによって、学力の底上げを図っていく考えだ。

つ学校の一体感を保つためには、選択科目での対応が最良だと考えました」(春日先生)

### 3年間を見据えた 進路指導方針の策定

2年生に選択科目を設け、進路実現に必要な科目を選択させる以上、1年生の段階で志望に応じた指導を充実させる必要がある。「必要な科目を履修していかないために、志望校を諦めなければならぬ」という事態は何としても避けなければなりません。1年生に対する進路指導の充実には早急に対応すべき課題です」と木下先生は強調する。

そのため、これまで特定期間に集中して配置していた「総合的な学習の時間」を毎週の時間割に組み込み、時期に応じた進路学習を体系的に行うことにした。特に、2年生の選択科目を決める1年生9月までに、大学卒業後の進路を考えさせたり、大学・学部・学科の情報を提供したりする予定だ。課題は3年間を見通した進路指

導の在り方を、学年ごとではなく全教師で共有することだ。神奈川県ではここ数年、新任教師の大量採用が続いている。県の慣例として、新採2〜3年目の教師が1年生の担任を受け持つことが多い。そのため、校内研修を強化して若手教師の進路指導力向上を図ると共に、ベテラン教師や進路指導部(同校ではキャリア活動支援グループ)が担任を支援する体制を整えていく予定だ。

「三者面談の期間中、進路指導室にキャリア活動支援グループの教師が常駐し、追加で説明が出来る体制を作ります。丁寧な対応で保護者に安心・納得していただき、担任の指導力向上にもつなげ、学校への信頼感を高めていきたいと思えます」(木下先生)

今後は、「総合的な学習の時間」の企画を担う調査研究グループと進路指導を受け持つキャリア活動支援グループとの連携も重要になる。

次年度以降は実務者レベルで情報交換を密に行い、足並みを揃えていく方針だ。